

令和元年度 第3回掛川市行財政改革審議会 議事録

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 令和元年10月17日（木）午前10時00分 ～ 午後12時00分 |
| 場 所 | 掛川市役所5階 議会全員協議会室 |
| 出席者 | 小松尚会長、他委員6名 |
| 掛川市 | 市長、副市長、教育長、戦略監、総務部長、企画政策部長、協働環境部長、教育部長、生涯学習協働推進課長、教育政策課長、社会教育課長、企画政策課長、行革・公共施設マネジメント推進室3名 |
| 傍聴者 | 23人（市議会議員4人、市職員17人、一般2人） |

1 開 会

司会（企画政策課長）

皆さん、おはようございます。

本日は、ご多忙のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第3回掛川市行財政改革審議会を開催させていただきます。

本日の日程ですが、おおむね2時間を目安としまして、議事を進めてまいりたいと考えております。申し遅れましたが、私は本日司会進行役を務めさせていただきます、企画政策課長の平松です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

また本日は、山下委員から欠席の旨、ご連絡をいただいておりますので、お知らせをいたします。それではまず初めに、松井市長からご挨拶申し上げます。

2 市長挨拶

松井市長

皆さん、おはようございます。

本日はお忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。

さて、今月から社会保障財源として消費税が10%引き上げられました。幼児教育・保育の無償化も始まり、この国の社会保障と税の一体改革は新たな段階にきたと思います。

少子高齢化が進行する中で、持続可能な社会を築いていくためには、様々な痛みを伴う政策を進めていく必要があります。掛川市としても、公共施設マネジメントや地球温暖化への取り組みなど、時代を担う若い世代に向けての取り組みを着実に進めていかなければならないと考えておりますので、さらに、ご理解、ご協力、ご指導をお願いしたいと思います。

前回の掛川市行財政改革審議会では、再配置案に基づき再配置検討の方向性及び検討時期についてご説明させていただきました。

本日の審議会では、お示しした再配置案の中から各地域に必要な施設についてご議論をいただきます。特に、地域に交流や賑わいを創出するための公民館や地域生涯学習センター等のコミュニティ施設、学校の施設、学童保育の保育所のあり方について、皆さんから率直なご意見、ご見解をお聞きしたいと思えます。

最後に、限られた時間の中ではありますが、将来にわたり持続可能な掛川市であり続けるために、是非とも活発なご議論をお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

企画政策課長

続きまして、小松会長からご挨拶をいただきます。小松会長よろしくお願ひいたします。

3 会長挨拶

小松会長

皆さん、おはようございます。

先日の台風で東日本の方では、大変大きな被害があったと聞いておりますが、こちらでは、大きな被害はなかったとお聞きしまして、安心をしたところでございます。

ただ、そのような有事には今日の議題にもなりますが、学校施設が避難所になるため、いつもより多くの方々が避難所にいらっしゃったとも伺いました。

公共施設本来の主用途については、いろいろ考えていくのですが、こういう有事の場合には避難や安全を守るための拠点にもなることを改めて認識いたしました。

つまり、公共施設はいろんな意味で、市民の生活を守り豊かな生活をするために必要であり、そのための拠点だと思いますので、是非とも活発なご議論をいただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

企画政策課長

ありがとうございました。

それでは協議事項に移りたいと思えます。掛川市行財政改革審議会条例第7条第1項の規定に基づき、議長を小松会長にお願ひいたします。会長、よろしくお願ひいたします。

4 協議事項

小松会長

それでは、時間も限られておりますので、早速、協議に移ります。

「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進に係る公共施設再配置計画の策定」についての「再配置案」の各地域に必要な施設について事務局から説明をお願いします。

企画政策部長

おはようございます、企画政策部長の山本でございます。

協議事項についてご説明をさせていただきます。

本日は、前回ご議論をいただきました再配置方針において、各地域に必要な施設であり、地域ごとに統合・複合化することで、賑わい創出や地域拠点化を検討していくと位置づけてしている施設であります。次第の①から③、公民館、地域生涯学習センター等と②の小中学校、③の学童保育所についてご協議をお願いしたいと思います。

まず、本日の資料の構成であります。資料1が再配置の方向性を用途ごとに整理した資料であります。前回提出しました再配置案の詳細を表にした資料となります。

そして、資料2から資料7がご協議いただくことにあたり、施設や地域の現況を説明する資料となっております。

それでは、施設の現況からご説明申し上げます。

最初に資料2をお願いいたします。資料2の公民館、地域生涯学習センター等の概況について、運営や利用状況などをまとめた資料になります。

掛川市には、公民館や地域生涯学習センター等のコミュニティ施設がありますが、活動内容は似ているものの、位置づけや利用者などに違いがあります。

表の最上段に施設番号5番の大東北公民館を掲載しております。大東及び大須賀区域では市が大東北公民館のように、社会教育法上の公民館を設置し、直営で公民館活動として健康や教養などの講座開催や貸し館業務などを実施しており市民団体などが利用しております。

一方、掛川区域には公民館がない代わりに、施設番号の7番から26番の地域生涯学習センターを設置しております。

これは地域における市民の生涯学習やコミュニティ活動の推進を図るため、市が設置し、地域の皆さんに運営していただいている施設であります。健康・教養などの講座開催や交友イベント、地域における各種会合の場として、当該地域内の自治会、地区まちづくり協議会、地域住民の皆さんが利用しております。

施設番号27番のさくら咲く学校は、旧原泉小学校が廃校される際に、跡地を

活用して生まれた交流型施設であります。地域立という言い方をしておりますが、地域の皆さんに自主的な運営を行っていただいているもので、交流事業や民間事業者などの活動拠点として地域内外の皆さんが利用しております。

施設番号 31 番と 32 番の大東及び大須賀の市民交流センターは協働によるまちづくりの拠点として、市民活動の活性化を図るための施設であります。市民団体に委託して運営していただいております。貸し館業務のほか、利用団体の交流会などを行いながら、市民団体や NPO 法人など地域の枠を越えた活動をしていただいている団体が利用しております。

次に、小中学校の概況についてご説明申し上げます。資料 3 をお願いいたします。資料 3 は小中学校の概況でございます。小中学校の児童・生徒数、実学級数、校舎などの状況を一覧にした資料であります。掛川市内には小学校が 22 校、中学校が 9 校ございます。左から 6 列目に実学級数がありますが、児童・生徒数の減少から 1 学年に 1 クラス、いわゆる単学級となっている学校が出てきております。

2 枚目の表が本年 5 月 1 日現在の小中学校別、学年別の児童・生徒数の資料であります。また、3 枚目のグラフについては、昭和 50 年以降の児童・生徒数の推移と令和 2 年以降の推計値を表にした資料であります。

最初の 1 頁にお戻りいただきまして、校舎の建築年度は昭和 40 年度から 50 年度に建てられたものが多く、耐用年数があと 10 年から 20 年後に迫っているものが多くなってきております。

次に、学童保育所の概況について申し上げます。資料 4 をお願いいたします。資料 4 は学童保育所の概況でございます。左から 6 列目に活動場所がございます。多くは小学校の教室を活用したり、隣接の専用施設を活用しておりますが、近年では、学童保育の需要は増えており、遠くの公共施設や少し学校から離れた公共施設や民間施設を活用して学童保育を行っているところも出てきています。現在 35 クラブが運営をされております。

以上の概況を踏まえ、用途別の方向性の案についてご説明申し上げます。

恐れ入りますが、資料 1 をご覧いただきたいと思っております。

資料 1 につきましましては、第 2 回審議会にて提出をいたしました再配置案の表の内容を文章にした資料になります。1 頁の最初「(1) 公民館、地域生涯学習センター等」の位置づけについてですが、市民の生涯学習の推進および地域コミュニティによる市民協働の推進のための施設という位置づけであります。

サービス提供の方針ですが、生涯学習や市民活動を支える重要な施設であり、協働によるまちづくりの拠点として、機能を維持すべきと考えております。

基本的な考え方ですが、更新時の方向性は学校再編に伴い、小中学校への複合化を検討します。配置の考え方ですが、公民館、地域生涯学習センターについて

は、各地域での生涯学習や地域活動を支える施設として、中学校区ごとに小中学校と一体的に配置を検討します。市民交流センターについては全市的な市民活動を支える施設として全市的に配置を検討してまいります。

次に4頁をお願いいたします。次に4頁「(2) 小中学校」であります。サービス提供の方針についてですが、今後、予測される少子化や施設の老朽化に伴う学校環境の変化に対応し、小中一貫教育の推進を踏まえた学校再編を検討いたします。基本的な考え方の更新時の方向性ですが、中長期的に存続する建物については長寿命化の対策を実施するとともに、近隣の小中学校との統合、小中一貫校化を検討します。学校再編時には、地域生涯学習センターなど各地域に必要な他の公共施設との複合化を検討します。

留意事項ですが、学校再編については、現在、庁内で検討しているところであり、今年度中に案をまとめまして、市民の方々からのご意見などを踏まえつつ、来年度再編計画をまとめる予定でございます。

資料の8頁をお願いいたします。次に「(3) 学童保育所」であります。サービス提供の方針についてですが、学童保育の需要は年々高まっており、不足傾向にあります。当面は余裕教室や隣接施設を活用しながら、待機児童の発生を抑制していき学校再編時には小学校への複合化を検討しながら、適正な規模を確保したいと考えております。

基本的な考え方の更新時の方向性ですが、学校再編に伴い、小学校への複合化を検討します。配置の考え方ですが、各地域に必要な施設として、小学校区に1施設を基本に配置します。用途ごとの方向性についての説明は以上になります。

最後に、ご協議の参考資料として本日提供させていただきました資料をご案内申し上げます。最初に資料5をご覧ください。資料5については、各公共施設の利用状況やコストについて統一的に調査した結果を公共施設カルテとしてまとめたものであります。ここでの説明は省略させていただきますが、別途ご確認をいただければと存じます。

次に資料6をご覧ください。今回の議論の対象となる施設の現況配置図になります。公共施設の統合や複合化を考える場合、実際の位置も重要になるかと思えます。必要に応じてご議論いただく際、参考としていただければと思います。

最後に資料7をご覧ください。中学校区別・年代別人口の表であります。表の上段に15歳未満、15歳から64歳、65歳以上の3区分での人口構成をまとめております。網掛けのついた項目は、掛川市の平均より高い値となっているものになります。掛川駅に近い中学校区は15歳未満、15歳から64歳の人口比率が比較的高く、原野谷中学校区をはじめとする掛川駅から離れた中学校区では65歳以上の人口比率が比較的高くなっております。

説明は以上になります。よろしくをお願いいたします。

小松会長

ありがとうございました。ここから協議を進めていきたいと思えます。

まず、ご説明いただいたということで、ご質問などあればお聞きして、その後意見交換をさせていただくことといたします。

私からまず一つ教えてください。資料2で今、公民館と地域生涯学習センター、市民交流センターなどの概況をご説明いただいたのですが、運営形態が地域運営と委託がございます。直営は結構なのですが、地域運営と委託とはどのように違うかを簡単にご説明いただけますでしょうか。

企画政策部長

最初に7番から26番の地域生涯学習センターについては、現在それぞれの地域に地区まちづくり協議会がございます。まちづくり協議会に、掛川市が交付金を交付する中で、地域の自主的な活動の拠点としていただいております。

いわゆる活動の内容、それから施設管理などもございますが、まちづくり協議会がまちづくり計画の中で定めた事業を進めていただくということで地域運営という形をとらせていただいております。

また、31番と32番の市民交流センターにつきましては、市で基本的な委託内容や仕様を定めまして、それに沿って受託された団体に事業を実施していただいているという内容になります。

小松会長

今日の議論の進め方について、少し私からご提案させていただこうと思えます。大きくは三つぐらいあると思えます。

まず一つは、今日は地域生涯学習センターや学童保育所、それから学校が対象ですが、特に学校についてのあり方についてご議論いただきたいと思えます。

市の方針としては、統廃合や小中一貫校、それから複合化というキーワードが出てきております。これまでのように学校が学校としてのみ存立するというものではなく、関連する施設と空間的に内容的に、それから運営的に一体化していくことを考えていきたいというのがご提案です。

それから二つ目は、地域づくりと施設のあり方です。施設の再編というのは、財政的な面からスタートしておりますので、総量的には減らしていく、コンパクトにしていくことになるのですが、コンパクトにしながらも必要なサービスの質をいかに維持していくのか、さらには向上していくのか、もしくは今日的なニーズに応えられるようにアップデートするかということが問題になってくると思えます。その辺りの点について、ご協議いただきたいと思っております。

それからもう一つ、統廃合をしていくことによる影響というものも当然出て

くると思います。掛川市ではJ A掛川やJ A遠州夢咲が統廃合した事例があるとお聞きしましたので、このあたりは少し様子をお聞きしながら考えていきたいと思います。

それから、学校再編、関連施設の統廃合などが進むことによる、色々な課題に対して、もう少し広く考えていく必要があると思います。当然、今までよりも施設が遠くなる住民の方はいらっしゃいますので、そういう方々の交通・移動手段をどうするかということが一つあるかと思います。それから学校の場合には、統廃合をするとどこに統合するかという問題もありますが、統合され学校機能がなくなったその場所、敷地つまり跡地をどのように考えていくかということもあろうかと思います。

それからもう少し、関連した計画との関係を見ていく必要があると思います。例えば、都市マスタープランや立地適正化計画も最近策定されており、そういう計画とどのように整合させていくかも考える必要があると思います。

つまり、施設再編はもの凄く上手くいったが、都市計画的に見ると非常に問題が起きている場合があってはならないものですから、そのあたりを今後考えていかなければなりません。

それからもう一つ、私が気になっているのは学校があることで、若い方がその地に居住することになるわけですが、学校が無くなることにより、そこに若い世代が居住しにくくなるという問題があると思います。これは単に居住の問題だけではなく、場合によっては産業、産業というのは工業だけではなく、むしろ農業や林業などの非常に土地との関係が深い産業については、大きな問題になると思います。

例えば、私は実情をよく存じ上げておりませんが、掛川のお茶処としての魅力が施設再編によって衰退化していくことが、私としては極力そういうことが起きないように考えていくべきだと思っております。これは単に施設再編の方向からだけ考えるのではなく、農業や林業の振興の視点からも考える必要があると思いますので、居住それから就業ということと、この施設再編の話は無縁ではありませんので、そのあたりも含め今後どのように考えるかが重要であると思います。

それから先程、台風の話をしました。やはり、山の管理ができなくなってくると、災害時には例えば流木による災害を受ける可能性も懸念されるわけです。人が普段接しないような場所ができてしまうことによる、いろんな市民生活上の問題が予想できるものですから、これは大きな話になりますが、そういう視点で施設再編を考えていけば良いのかを時間の許す限りご協議できれば思っております。検討すべきテーマは盛りだくさんですが、まずは、学校の統廃合・小中一貫・複合化などについて、委員の皆さんからいろいろご意見やご質問などもい

ただきたいと思っています。

例えば、まず一つ私から皆さんに問いかけたいことは、学校再編の関係で小中一貫や複合化が進んでいくことは、ある意味で学校が聖域ではなくなることを示していると思いますが、いかがでしょうか。

委員

口火を切るということで、これまでそういったことに関わってきましたので、それを踏まえて発言したいと思います。

前回、俯瞰をしましたね。地域で見るとやっぱり大須賀・大東区域にいろんな施設があると思います。ここで見るとやっぱり教育関係のところに様々な課題があり、それは共通理解できたと思います。

これは掛川に限ったことではなく、全国どこでも喫緊の課題であり討論されていると思います。そういう話を聞く時に、小学校と小学校が小さくなってきたから統合すればいいと、そういう単純な考え方で掛川は進めていないと思います。それは1回目の話で縮充という視点があったと思いますが、掛川の教育そのものをどうするのか、そういう視点でこれまでも議論してきたと思っています。

それで4頁の小中学校の基本的な考え方をもう一度確認したいのですが、そこに更新時の方向性がありますね。それぞれ最もだと思いますが、一つの言葉として、掛川市がここ近年、推進してきた学園化という言葉がキーワードとして入っていないのですが、これについてはどうかと思っています。学園化構想を掲げたのが平成20年頃だったと思いますので、その後、構想から今や教育へという形で進んできていると思います。この件については、学園化の中でいろいろ考えて議論もしてきたと思いますので、これらについて教育長からご説明をお願いしたいと思います。

教育長

今、委員がおっしゃったように掛川市の中学校区では、学園化構想ということで今まで進めておまして、スタートして今年で6年目、来年7年目を迎えようとしております。

今現在ですが、その中学校区では、学校再編のことも併せて、新たな学園づくりということで新しい時代に向けた教育内容や施設のことも含め検討を進めています。

今回この中で、あえて学園化構想のことに触れていないのですが、実際、大きなところでは、第2次教育振興基本計画を策定しまして、それに沿って、教育内容は進めておりますし、さらなる学園化の一番のポイントは小中一貫教育、もっと言いますと、掛川型小中一貫教育を推進しようということで、それと併せて学

校再編はどうあるべきということを教育委員会の中でも検討している状況でございます。

委員

ありがとうございました。

その掛川型小中一貫教育というのは、掛川市ならではの教育だと思います。そこに地域の教育力をいかに活用していくのか、これまで進めてきた地域生涯学習センターを上手くはめ込んでいくのか、そうしたことで今までの掛川の教育財産を踏まえた視点での構想が極めて重要ということを思いました。

私はこの学園化の新たな学園づくりということで城東学園に関わり少し参加させていただいたのですが、その中でよく発言されたのが学校は地域の太陽であると、その太陽が無くなると地域が暗くなってしまうと、その中でどのようにしていくかがやっぱり皆さんの大きな関心事だったと思います。今言われた中での課題も、そうしたところが背景にあると思いつながら聞かせてもらいました。

小松会長

この件について、他の委員の方々いかがですか。

委員

先ほどのご説明の中で、各学校の公共施設カルテの写真が出ている資料がありますが、この中にどこの学校も体育館はあると思いますが、構成施設の中に載っていないのはどのような扱いなのですか。やはり、体育館はその地域の方々が大勢集まる最大の場所であり、賑わいを作り出す場所でもあると思います。体育館とはどのような扱いなのでしょう。

企画政策部長

皆さん、わかりにくい資料で申し訳ございません。資料5の小学校の体育館につきましては、例えば、最初の日坂小学校をご覧くださいますと、2の建物のデータに構成施設ということで、校舎屋内運動場という記述がございます、そちらに体育館を掲載させていただきました。非常に分かりにくい資料で申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

小松会長

学校の統廃合というのは、先ほど鈴木副会長のお話にもありましたし、私も他市の委員などを委嘱されておりますので、規模の適正化ということはよく言われるわけですが、その時にととき出る議論として適正化の規模についてという考え方は、私の考えでは二つぐらいございます。一つは全校生徒数の話、もう少し具

体的に言いますと1学年に2クラス構成できるようになるのかということ。今は、掛川市も40人、30人が定数になっており、1クラスの定数になってクラス替えができると思いますが、ときどき議論になるのは、そもそも定数を変えることはあり得ないのかということです。

つまり、日本は40人、30人の定数が割と一般的で通常ですが、ヨーロッパの国に行くと1クラス20人ぐらいが定数になっています。そうすると、定数を変えると例えば40人ぐらいを、例えば1学年30人しかいない学年も実は2クラス作ることが可能となります。総数は小さいままですが、ある種の組み替えを行うことで、そういうクラスの定員数の見直しを掛川市でも対応できないのか。

特に、最近では少人数教育という形で、大勢の生徒を1人の先生が見るよりも、もう少しきめ細やかな教育をしなければいけない時には、そういう考え方もあるという意見も出てくるとは思っています。

掛川市の場合はいかがでしょう。そのあたりは、やはり総数で適正化に主眼を置いているとは思いますが、どのようなお考えかということについて、少しお聞かせいただけるとありがたいです。

教育長

少人数での指導というのは、きめ細やかな指導ができることで子供にとっては非常に教育的な効果がありますし、教師側にとっても子供のことがよく見え、そういった効果がいろんなところで言われております。

先ほどの定数については、国の定数で定められており、それによって教員も配置されております。40人から35人学級、静岡式の35人学級として県内で行われておりますが、それは県の方で国とは別に加配教員を配置して対応しております。

さらにそれを小松会長がおっしゃるように、20人程という数にするためには、それに対応できる教員を確保しなければなりませんし、政令市では一部、そういった動きがあるとも聞いてはおりますが、掛川市のような12万ぐらいの人口規模ですと、そういった加配をしてクラス数を増やすことを実施しているところについては聞いてはおりません。加配をやる一番の問題は、教員がいないことです。現在、掛川市の教員で学校再編を考えている大きな理由の一つとしてそれが挙げられております。教員をまず確保していかなければ、学校施設があっても、そこで教える教員がいない、学校がそもそも成り立たないという問題もありますので、結論からすると、今35人学級を維持するにも非常に厳しい状況に掛川市はあることを逆に伝えなければならないと私自身思っております。

小松会長

そういう状況もありますので、その次に控えている複合化というのは、単に、

スペースの共用ではなく、かなり教育の面で、例えば生涯学習と学校教育というのが、どのように連携するかによって、教育の質だけでなく、先ほど教育長がおっしゃられたようなマンパワーの部分も含め、どう改善・措置していくかということが課題になってくると思います。

私はいつも言うのですが、それは複合化という良い面が発揮されないと単なる合築、言い方をちょっときつくと雑居ビルになってしまいます。

それは、掛川市としての目指すべきところではないと思いますので、現在、市の提案としては公民館、地域生涯学習センター等と学校が複合化していくということですが、単に空間だけではなくて、そこでの教育や市民活動の質というのがどのように担保されるのか、もしくは実現していくのかというところが非常に興味深く関心のあるところになります。この複合化について、委員の皆さんから何かご意見などはありますでしょうか。

委員

皆さんが学校はどんなところですかと聞かれたら何と答えますか。学校は、先生がいて子ども達が学ぶ場所と答えますよね。そういう概念が広く浸透していると思います。しかしながら、その概念を変えていくことが一つ大事になると思っています。

小松会長のおっしゃることの一つ答えになると思いますが、つまり、学校は子どもだけが学ぶ、これから生きていく社会に遅く生きていく、そういう子ども達を育てる、そういう場所ですという発想をもう少し変えて、広めることが必要になると思います。

つまり、子どもはもちろん学びますが、その子どもを教える先生達も学び、さらに言うと、地域の皆さんも何かしら関わり学んでいくことになります。それが地域の教育力の向上につながり、学校教育の子ども達の教育だけという概念をもう少し広げていくことが一つ大事だと思います。

併せて学校って何ですかと聞かれた時に、それは小学校や中学校があつて、高校や大学とも言いますよね。皆さんもそれぞれ通ってきたと思います。でも、思い出してみると、例えば小学校6年生から中学校へ進級する時に、それまで小学校では普通に接していた友達が中学校に行ったら、なんかすごく先輩で怖い、あるいは、他の小学校の人とちょっと接しにくい、そういう経験が皆さんあると思います。そういう経験がよく言う中1プロブレムであり、小学校でも不登校数がある程度ありますが、中学校1年生になると急増し、そういった理由もあつて不登校であったり、いじめだったり、そうしたものに広がっていくという問題があつたと思っています。そうしたものも含め、掛川市としてはこれからの教育を考えていく時に、やはり小中一貫教育できれば一体化教育が良いのではないかと

と考えています。

さらに、その地域生涯学習センターないし、地域のいろいろな教育力も加わった、まさに学園化をイメージして、それに向けたハード面やソフト面の様々な課題をクリアしていくのは方向性として私は良いと思っております。

委員

複合化の施設へ地域の人達が入るということは、地域活性化にも繋がるし、高齢の方達が子ども達のところに行って、自分たちも学ぶというような、意欲も出て大変良いと思います。

しかし、昔、事件などがあり学校内に地域の人達は入れないようになり、門を閉めていた期間がずっとあり、私達はなかなか小学校の中に入ることも容易ではなかったと記憶していますが、今はどのようになっていますか。

教育長

裏門がある学校とない学校がありますが、基本的に子ども達が学校内で活動している時は、正門と裏門を基本的には閉めています。業者関係の方は3時以降の出入りを義務づけるなど時間帯を決めて対応し、そういった安全対策を各学校単位でしっかり行っております。

今、全国的に地域と学校との連携については、ここ数年ずっと叫ばれている中で、開かれた学校、ですから学校の子ども達が門の外へ出るし、外の大人達も学校へ来ることをもっと進めなければいけないということで、閉ざされた門を徐々に開けていくというような、開放的で開かれた学校づくりというものが、市内の小学校も中学校も、ここ10年ぐらいで進められているところでございます。

委員

それにちょっと補足しますが、今現在、私の住んでいる市内の南部区域では、中学校学園化がものすごく進んでいます。最近では、地域まちづくり協議会の地域の方が小学校でお祭りの左縄作りを教えたり、もう少し前だと学校で子ども達と芋掘りをしたり、芋は種を蒔くのではなく苗をさすということ教えました。地域と学校というものがかなり密接な関係になりつつあります。

この前、私も授業参観に参加しましたが、子ども達が私達を見て地域コミュニティのおじさんと言いました。それで、この前は芋掘りをやってくれてありがとうと言い、子ども達がみんなお辞儀をしていきました。非常に地域と学校は一つになりつつあります。

一つの方法で学校運営協議会があり私も小学校と関係しています。学校からぜひ来てくださいと声をかけていただき、学校は地域と一緒にあるというよう

に、最近、その方式が法令なども整備され進み始めています。地域があるから学校もある、学校があるから地域もあるというような一体感を出しています。学校からは、どんどん学校へ来てくださいと誘っていただくので、私も何回か学校の授業参観に行っています。もちろん子供はいないですが、学校がかなり開けてきている状況になっています。

それともう一つ非常に感じていることは、学校を複合化して有事の際は、学校に避難するわけですから、他の学校もあるとは思いますが、その空き教室が防災倉庫となり、避難所が体育館ということも考えられ地域の核、そして、コンパクトシティにする核が学校になっても全くおかしくないと思っています。地域の良い場所に学校がありますので、それは非常に考えるべきことだと思っています。

それは中学校学園化や学校運営協議会で地域と学校が一体化するということは今後も進みつつありますから、それをもう少し地域も学校も歩み寄っていくと更に進み、足かけが2段3段上がってきている状態だと私は思っております。ですから、学校の中に防災倉庫なんか作るのは、簡単で非常に便利で良いと思いますので、子ども達の防災に対する考え方や関心も育成できると思います。

また、中学校には特にそのような防災教育が必要かもしれません。中学生の手が有事の際は必要で、特に市内の南部区域では防災のことをやってくれる中学生が一番重要だと考えています。中学生を地域に取り込もうという取り組みもあるようになりましたので少し進んできたと感じています。

委員

今の発言に関連してですが、前半の話で地域の皆さんが学校にどんどん関わりを持っているというのは、これまで培った掛川市の教育の一つの成果であると思います。皆さんがいろんな形で学校の教育に関わりを持ってくださるということをお願いしながら、それを発展させるという考え方も一つ大事だと思いました。それに関連して私は大学の方で授業をしています。昨年、学生の中で1人年配の方が講義を聴いていて、年齢を聞くと58歳で50代の方が今も学んでいるということに驚きました。これまで学校は、子どもの話と聞いていたが、自分の授業にそういう方がいらして、とても凄いなとも思いました。

それとまた別の話ですが、ある静岡市内の高校に伺い、廊下を隔ててこちら側で高校生が授業をやっていました。その向こう側では市民の方が集まり何か活動をしていました。学校なのに子ども達が、高校生と一般市民の方が変な形ではなくて、ごく自然に学んでいる様子を見て学校という自分の概念が少し広がった感じがしました。そのように考えた時に、これからの学校は子供が人生の基礎を学ぶ場であることに加えて、いろんな皆さんがいろんな場所で働いています

が、それは会社であったり、市役所であったりするわけで、そういうことを終えた方が人生の基礎を学んだ子ども時代、そして人生の自分がやったことをまとめる場みたいな観点で学校を捉えた時、ちょっと面白くなると思っています。

今、自分史活動などと言ったりしますが、その一つでもあると思いますが、自分の歩みをまとめてみる、自分の仕事をまとめてみる、何かいっぱい写真なども整理してみる、様々な整理の仕方があるとは思いますが、そういうことを学校でやれたら、またちょっと面白いかなとも考えています。個人的に家でやれる人も勿論いるとは思いますが、何か少しお金をかければ立派な本もできるかもしれません。そういうことを地域の学校に集まり子どもも学ぶ、そして年配の皆さんも人生をまとめていきながら、より良い充実した人生としてまとめていく、そんな掛川になったら少し夢が持てると個人的には思っています。

小松会長

今、すごく夢のある話に展開していますが、私の方から教えていただきたいと思うことがあります。掛川市ではかなり学校に地域の方が入っていくことが、普通になりつつあるということですが、例えば、具体的にゲストティーチャーを実施することや学校のある環境の維持管理を行い生徒達と一緒にやるなど色々想像が湧きます。実際、掛川市ではどんなことが行われてきたのかを少しご紹介いただけないでしょうか。

私が知らないだけだとは思いますが、おそらく今後、複合化というものが先ほど単なる違うものが同じ場所にいるだけではなく、ある意味、融合することで新しいサービスを見直していくところに繋がってくると思います。そういう面が掛川市にあり、それを少し私も共有しておきたいと思いますので、少しの例で結構ですので教えていただけますでしょうか。

教育長

先ほどから話に出ております学園化を進めるにあたり、中学校区ごとに地区の方々や学校関係者、保護者などで構成される子供育成支援協議会が設置されておりまして、そこに学校と地域を繋げるコーディネーターさんがいらっしゃいます。

例えば、学校で福祉的なことを子ども達に体験させたいとなれば、誰か地域に支援できる先生がいればコーディネーターさんが学校に紹介して繋げていくことで、福祉や徳育的なこと、また掛川市は報徳とよく言われますので、そういった報徳に関して何か教えてくれるような先生やそのような活動を学園ごとで特色を出しながら進めております。最近ですと放課後子供教室を進めております。

教育政策課長

例えば、西郷小学校では、子供の森という民有地をお借りして森林整備をしており、その中で子ども達が体験学習をする事例や栗拾いを小学生1・2年生が参加して地域の方と一緒にした事例や城北小学校では、土曜広場ということで土曜日に地域の子どもを集めて、茶道の稽古をしたり、絵本の読み聞かせをしたり、室内ゲーム、卓球、ラジオ体操を教えたりしている事例などもございます。

また、中央小学区の一部になりますが、同じく子供放課後教室ということで学習活動や課外活動の指導を地域の方が実施している事例もございます。

その他の学校の授業の中では、例えば、しめ縄作りを地域の方が教えていただくことや先ほどご紹介がありました稲刈り・田植えなどもご指導いただく事例は各学校でそれぞれ取り組んでいるところであります。

委員

他の市町には、青少年健全育成会という組織があり、それぞれ活動していると思います。この青少年健全育成会は、主に社会教育で様々な問題行動に対応する役割があったと思いますが、掛川市はその青少年健全育成会を発展解消しまして、それで名称が子供育成支援協議会になりました。この名称からしても子どもの健全な成長育成を支援して、そこにコーディネーターさんがいて、学校と様々な連携をしながら地域の方も入りやすく、学校も地域と連携しやすいシステムとして掛川市が取り組んでおり、地域の皆さんの協力をいただきながら学校が地域と関わっているということだと思います。

もともと掛川市は、子ども達が地域の様々な活動に参加する割合がものすごく高く、全国の学力調査の分析に関わらせてもらった時に驚いたんですが、テストの点に注目しがちですが、様々な学習や生活に係るアンケート調査がありまして、その結果を見ると掛川市は子ども達が地域活動に参加する比率が他の市町に比べて圧倒的に高かったと記憶しています。これは、掛川市の地域が子ども達を上手く取り組み、地域で育てるという発想がずっと根強くあり、祭典などの地域のいろんな活動に子ども達が参加しやすいような形を歴史の中で作ってきた成果だと思います。

そういう中で子供育成支援協議会や地域コーディネーターさんという形ができ上がったので、今後、学園化を検討する時に充実・発展させていくべきだと思います。

委員

先ほどから言われているコーディネーターさんですが、幼小中学校に関わっておられて内容もだんだん濃くなってきていると思います。我々も地域・地区へ

のボランティアの依頼ということで年々増加傾向にあると聞いています。私の立場でも環境整備ということで小学校の草刈りなどに参加する予定になっています。

委員

最近、地域と学校と家庭がものすごく結びついている事例があります。一つは、教育支援員の家庭教育支援員という制度を掛川市ではすでに実施しており、その制度は地域のお母さん方や一般のお母さん方が、県の制度で2日ぐらい勉強することで、家庭教育支援員として学校の授業参観の後、支援員の人が2、3人で若いお母さん方がグループで集まっている場所で、ご家庭のお子さんの教育や躰などに関する悩み相談を受けています。

教育を受けた支援員さんは普通のお母さんで、みんな若い30代ぐらいのお母さんが多いですが、地域のお母さん方が子ども達の成長に繋がり、地域に友達ができるということで非常に利用されています。地域のお母さん方が明るく、スカッとしたような感じで、笑顔がものすごく戻るということで県の教育委員会で取り組まれている事業になります。

これは、学校や地域に密接した最近の新しい悩み事を解消し、黄信号の子ども達を赤信号にしないための取り組みとして素晴らしいと思います。地域のお母さん方が勉強をして、家庭教育支援員になる事例が3年ぐらい前からあり、学校にも役立って、地域にも役立っているという状況です。子どもさんをお持ちのお母さんにはすごい人気で、授業参観が終わると普段はみなさん帰ってしましますが、家庭の悩み相談をやるというとかかなり多くの方が残っています。どのご家庭でも若干の悩みがあるわけで、また、学校にも悩みはありますので、上手く地域と学校、お母さんが結びついているということは非常に良いことだと思っています。

委員

学校概念で先ほどお話しましたが、話をまとめてみると人生を学ぶ子ども達、人生の基礎を学ぶ子ども達、それから教育を学ぶ先生、それから子育てを学ぶ保護者や親、そして、より良い楽しい充実した人生を考える年配の皆さん、そんな形で学校概念を広めていくことを原点に置きながら、課題を考えていくことが一つあると思いました。

小松会長

今の話をお聞きしてですが、多くの市町であるのは学校を地域が支援するという動きは色々ございます。

例えば、文部科学省が進めるコミュニティスクールも基本はそういうことですが、さらに進むところにはそういう関係にある意味裏返すと言うと変ですけども、学校を起点もしくは拠点にしてまちづくりを進めていこうとする動きがあります。これはある人の言葉曰わく、コミュニティスクールではなくスクールコミュニティと言う人もいますが、その素地が掛川市の各学区にはあるということを今お聞きして非常に心強いと思いました。

それからもう一つは、複合化の話をしている中で、地域生涯学習センターがまちづくり協議会の拠点になっておりますが、学校と一緒に空間的にも統一されることは、それを見据えた関係になっていくという意味で非常に基盤強化というか、まちづくりの観点、それから、まちぐるみの教育の両輪で資質向上に繋がっていくとお聞きし、学校、公民館などが複合化していくことが単に空間的な統合だけでなく、もう少しサービス面やまちづくりの面での質的向上に繋がっていく可能性があると思いました。もしくは、掛川市にはその素地が既にあるということをお聞きしながら考えていました。

一方、先ほどのように小中一貫とか統廃合が進むことが前提になっていると、当然、そこにある拠点が別の場所へ移っていくようなことも起きてきますし、そういうことに対して利便性の低下や魅力の低下ということも考えないといけないことだと思います。ただ、掛川市においては学校に関してそういう事例が無いということもわかりました。一番冒頭に申し上げたJAについては、そういう統廃合が少しずつ進んでいるとお聞きしています。もし可能でしたら、そのあたりについて少し話題提供というか情報提供いただけると非常にありがたいと思いますが、いかがでしょうか。例えば、不便になったなど何でも結構です。

委員

当初そういう話が出た時、大勢の方が何とかならないものと願ったわけなんですけど、やはり統廃合されて場所が遠くなり、若い方なら若干は許せるかもしれませんが、お年寄りにとっては今までと大きく変わり戸惑いもあったと思います。やはり、窓口へ行ってお話しながらいろんな処理がされるということで安心もしましたが、その拠点が移転するとなると、何とか行けるとしても周りが見知らぬ人ばかりで世間話もなかなかできない状況で待ち時間が長いということで、当初は大変だったと思います。私も不便を感じました。

委員

JA掛川市は旧掛川市の北部地域になりますが、現在、そちらの統廃合を行っております。来年の1月下旬には、ほぼ統廃合完了という形になりますが、ここ

までにはやはり年数もかかっており、いろいろな考えの基に始まったわけですが、まずは事業関係が厳しくなったこと、施設の老朽化が進んでおり耐震、耐用年数も考えまして統廃合を進めていたと思います。それに併せまして、農業を基軸とした地域農業協同組合を目指し自己改革に取り組んでいます。職員が出向き、組合員やお客様皆様のご希望にできる限り答えるという考えの基に動いているところです。

金融に関しましては、今までありました支所が無くなった地域には、金融移動店舗者を出向かせまして、週1回半日その場に留まりまして、預貯金対応などお客様のご要望に応じて皆様のご心配事を解消するように対応しております。

私個人の考えも入りますが、統廃合しますと4支所が営農経済センター1店、金融店舗1店となります。多地区方面から人が寄ることによって情報もかなり収集されるようになり、アンテナも張り巡ることができ、より良いものが生まれってくる可能性があると思っています。これまでもJAが協力している地域塾も多く、小中学校に出向いていることも確かです。そして、官民が一体になり知恵を繋いでいく、年齢を重ねていくことによって、培った知恵を次世代の人達に繋げていく部分でも統廃合再編されることにより、大きくなった部分で良い方向に進んでいくとも思っております。

小松会長

今、農協について色々と教えていただきましたが、その中で時間をかけて進めていると言うことですが、例えば、実際には色々と地域の方々に説明をする時間が多分あったと思います。掛川市もこれから地域説明会を実施していくわけですが、少しその時の様子やどの程度時間がかかったのか、地域に対してご説明をして、ご理解いただくのにどれぐらいの時間がかかったのか、どんなやり取りがその時にあったのかなど、もう少し教えていただけますか。

委員

第54回の総代会ですので、今から4年ほど前に挙げた原案を皆さんに納得していただいたものになります。そこに来るまでにはまた何年か前からの話し合いがあったと思います。また、3年前からは確実に統廃合が進む中で耐震化された建物の建設も行っているところがございます。

地区の皆様には旧掛川の小学校区単位と言いますか、16支所がありましたので、そちらの方で説明会や統廃合に関して店舗再編委員会を設けて話し合いを度々開き、皆さんの要望に応えるように質問をたくさん受けて、その質問に丁寧に答えるというようなやり取りが多かったように思います。

小松会長

地域に説明される時には、先ほど言ったように職員はこれから待っていないで出向く、金融車を回すなどの説明やそういうメニュー・方針はきっちりお伝えしながら説明をされたということですか。

委員

もちろんそうです。やはり、組合員さんがあつてのJAというところがありますので、一つでも不信感があつてはならないというような、そういう捉え方をしまして役員一同また職員がそれに対応していった形になっています。

委員

先ほどは掛川の教育の現状を踏まえて、今後の展望や学校概念などのお話をしましたが、小松会長が言われるように一方でこれに伴う課題といったところも議論していく必要があると思います。今のJAの話聞いて学校だったらどうかと思ったわけですが、学校は地域の太陽であり存在するだけで安心、それが無くなったら、もう終わりという感情が誰しも持っていると思います。特段学校に関わっていなくても、やっぱり自分のところに自分が卒業した学校があるというのは一つの支えになっていると思います。

それが再編によって無くなると、会長の話の中であった交通どうするかと言うような具体的なことがある一方で、そこから人が減って若い世代が無くなって、先ほどの地図にありましたが、この地図のこの辺がもう人がいなくなってしまう、産業は大丈夫か、また掛川のお茶は大丈夫かという過疎化に伴って出る、そうした面の心配事は大丈夫ですかというようなことが出てくるため、様々な考え得る課題については、やっぱり考えていく必要があると思います。

それで一つ話がありまして、ちょうど城東学園の話し合いの中でいろんな層の方々が出席されていましたが、やっぱり現実問題として今、通学している学校が無くなって、遠くに学校ができたとしたら、その遠くの学校に通う交通手段は大丈夫なのかということが現実問題としてあつて、それも話し合う中でこういう考え方がありました。

時間をかけて歩いて通学することは基本ですが、例えばスクールバスを用意していただいて、それでバスで通えば安心という点では本当に安心できるという意見がありました。アメリカのユージンの学校に行った際、掛川姉妹都市の中学校に行った時に子ども達はバスで通うのが通常で、日本は徒歩で通う自転車を通うことは当たり前ですが、考えてみると掛川は逆川を中心に上内田の方から下ってくるわけで、北中なんかも向こうの方から下りてくるわけです。自分が学校にいた時は雨が降ったりすると、自転車通学の生徒がどっかで転ばないか、

上内田の方から自転車通学の生徒が雑草で滑ったりしないか心配していたことを思い出しました。そうした点で地域の皆さんに草刈りやっていたり、砂利を掃いていたりしているわけですが、例えば、スクールバスで通学するとなれば、そういう面の心配事は無くなると思ったりもしました。

小松会長

ありがとうございました。鈴木副会長に言っていただきましたが、ここからは少し学校が小中一貫を踏まえ統廃合や複合化を検討するというようなことを実施していく際には、やっぱり課題が色々あるかと思います。それで少し先んじて農協の統廃合の話をお聞きしましたが、やはり、学校が遠くなってしまうこと、それから私が申し上げております居住地形成に影響があるではないか、それから産業に影響もあるではないか、それから子ども達の通学はどうするのか、それから跡地をどうするのかというような課題はあり、例えば、跡地の話というのは意外に後回しになることも多いと思います。ところが地元の人からすると、仮に統廃合に合意したとしても、跡地をどうするのかという話がやっぱりセットでないとなかなか話が進まないという面も現実にはあると思います。

それから今日は都市計画審議会にも出席されていた委員さんもいたということですので、他のいろんな計画などどのように整合性を持って進めていくかというようなことも実際大きな問題だと思います。そのあたりについては、少し都市計画という目線を見た時に、今議論している内容をどのようにご覧になり、どんな課題がありそうかということについてコメントいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

都市計画においてコンパクトシティを進めるということで、住民にとって住みやすく、サービスを受けやすくなることは良いことだと考えておりました。

しかしながら、現在、住居がすごい奥の方にあったり、広い地域の中に住居が散在しているということで、それは徐々にコンパクトなまちづくりにして歳をとっても、なるべく住居が多いところでサービスを受けながら暮らしていくというのが良いことだと思いました。

今回も中学校区の人口などで見ますと、大東や大須賀区域の方だと高齢化が進んでいるので、サービスを受けるのにやはり足（移動手段）という問題などがあると思います。大東や大須賀区域のコンパクトシティはある程度、高齢者の方々にサービスが行き届くようなものにするべきだと考えています。

小松会長

今、大須賀の話がありまして、大須賀は比較的コンパクトにまとまったエリアだと思いましたが、今の話でお考えになったことをお願いいたします。

委員

大須賀は旧大須賀町ということで、施設がいろいろ集約されていて揃ってはいますが、大須賀にも小学校が二つありまして、横須賀小学校と大淵小学校とあります。

先ほどから進んでいる複合化の話はすごく良いお話だと思いますし、地域の高齢の方と地域の方との交流が図れているというのはすごく良いと思います。

ただ、おそらく大須賀で複合化を進めるとなると、決めつけてしまうのは良くありませんが、現支所がある周辺の横須賀地区にいろいろ施設が集約され、大淵小学校区にも地域コミュニティはありますので、小学校が無くなることによって、その地域の人たちが明るさを失ってしまうことは良くないと思いますので、難しい問題だと思います。あとは、移動手段でバスなどをうまく使ってやれば良いとは思いますが、その辺もまだまだ色々な問題はあっていると思います。

小松会長

ありがとうございます。今、大須賀については割とコンパクトなところなので、複合化するメリットもあると思います。ただ、跡地の活用はいろいろ考えなくてはならないところですが、もう少し広範囲のエリア、特に農業や林業がそれなりに存続しているエリアについては、そういう産業への影響も非常に大きいと思っています。その辺りについて、私はよく分からないので、ぜひ委員さんに教えていただきたいと思いますが、やはり先ほどのお話にもあったようにJAが統廃合されると言うことは、それなりに組合員さんが減ってきている事実もあると思いますので、こういう公共施設の特に学校の統廃合や再編というのが進むことがどんな影響がありそうか何かお考えなどありますでしょうか。

委員

旧掛川市では以前にも再編という形で、小学校や中学校が統廃合されたことがあります。その時とは、統廃合について色んな議論がされていますが、多少なりとも違う面が出てきていると思います。

まず、ずいぶん前にはなりますが、小学校や中学校が統廃合された時に、農業後継者が外に出ていってしまうお宅がすごく多かったと思います。社会的に考えても農業が少し苦しい時代というのが未だに続いており、そうすると後継者がいなくなり、ちょっと都会に出て大学などを卒業すると、都会に行きつ放して帰省しないという現状がしばらく続いているのだと思います。

そこをどうするかは、これから掛川市の課題でもあるとは思いますが、学校については、統廃合により原泉地区や原田地区の幼稚園及び小学校もバス通学になっています。また、日東の方でもバス通学になっていると思います。

幼稚園になりますと、割と保護者の方が送迎していることもあるとお聞きしていますが、基本的に幼稚園バスがありますので、通園ができており、人口減少の中で山の方から降りて通園しているという話もよく聞かれます。

小松会長

今、その学校のスクールバスは、例えばコミュニティバスを兼ねていますか。

事務局

専用バスになります。

委員

まず一つは、大浜中学校区には大坂小学校と千浜小学校二つの小学校があります。その一つの大坂小学校が大浜中学校と統合するのは問題ないですが、千浜小学校となるとかなり通学距離があります。それで現状をよく考えてみると、小学校一年生、二年生、三年生ぐらいが遠くまで雨の降った日には、とても通学できないという個人的な感覚です。だから、それには通学距離を縮めることや低学年の子ども達のためにスクールバスを現実化するしかないと思います。

そのバスが子ども達だけが乗車するバスではなく、そこに防災センターができたり、交流センターができたりして色んなものが学校にできれば大人も当然乗れると思います。既存の老人ホームは山の方にあり、乗り合いでお年寄りが通っていますが、仮に老人ホームが学校へ複合化されたとしたら、どういう運行するかというのは検討する必要があると思いますが決して無理な話ではないと思います。それよりも児童が10人しかいないクラスの学校がいくつかありまして、その子ども達は女の子6人、男の子4人、野球の試合をやろうとしてもできないくらいです。そんなところに通うよりも早く統廃合を実施して、競争力のある子ども、コミュニケーション力のある子どもに育てた方が将来のためにはすごく役に立つと思っています。統廃合はマイナス因子よりもプラス因子の方が多いと思います。

委員

先ほどのお話では、仮に大須賀地区で大淵小学校が横須賀小学校に統合され、大淵小学校が無くなったらどうなるの、そういうことは考えられないという話がありましたが、私が北中に勤めている時に粟本地区長と話をしました。粟本地

区は栗本小学校が無くなり、栗本幼稚園も無くなりましたので、地域の火が消えたとしみじみ言っていたことを思い出します。そういう感情を持つことは自然なことで、それぐらい小学校、幼稚園も含め存在感、その存在意味は地域にとって大きいと思います。それをこういう形で一つにしていく、統廃合を考えた時にそこをどのようにクリアしていくかは大きな課題だと思っています。

例えば、原泉小学校が無くなって、西郷小へ統合された時には確か学校の子どもの数は35人ぐらい、1学年6人ほどだったと思います。先ほど言われたように6人の子ども達で学校生活をしていくことが、その子ども達の将来を考えた時に果たして良いのだろうか。やはり、教育長も言われたように、やっぱり教育には適正規模、適正配置があり、その適正な人数というのがあると言った時に、勿論その6人で細かく、きめ細やかな教育ができるという一方で子ども達が、いろんな子ども達がいる中で自然に学んでいく、そうした部分がどうしても欠けてしまうと考えた時には小規模校の課題になってしまおうと思います。

また、そうした場合には通学バスを利用することになりますが、先ほど言われたようにバスに乗るのは子どもだけではなく、登校、下校だけに利用するという発想も少し広げることで、地域のいろんな方々がいろいろな手法でバスに乗れるようになると思います。より上手く活用を図ることで、地域の太陽が無くなったという部分をもう少し違う視点から考えながら、でもやっぱり子ども達の将来を考えて行動し、地域の皆さんがこのバスを活用して何かできるというプラス面を訴えていくこともあると思っています。

委員

統廃合で使われなくなった施設を老朽化したと言って壊してしまうと、最初の小松会長の挨拶の中で学校が避難所になっているというお話があって、確かに避難所で体育館を使わせてもらっていますので、有事の際、体育館が無くなった時、そこの地域の方たちの避難場所、大きな南海トラフが来た時に家に戻れない又は家の中で生活ができない人が、おそらく多いと思いますのでその時に地域に体育館が無いというとどんなふうになってしまうのかという危機感があります。

小松会長

やはり、平時だけではなく有事も非常に大事になります。やっぱりそういう意味は学校というもの変わる何か拠点としての機能がおそらく跡地にも必要だろうと思います。

先ほどお話がありました、原泉小学校の跡地にさくら咲く学校があって、実は今日私も午後に訪問させていただきますが、ある意味では学校という機能はな

く、いろんな地域立の交流型施設という形で資料にも記載されています。こういう跡地活用というのは、おそらく一つの可能性だと思っています。

つまり、いわゆる学校教育としてのサービスはありませんが、社会教育、それから場合によっては幼児教育とか家庭教育の拠点をこういう廃校を利用して行うことは、おそらくあると思っています。そのあたりについて、皆さんは知っていて、私がよく分かっていないので、今日の午後見学しようと思います。

先ほど火が消えたようになってしまう地域に対して、このさくら咲く学校が新しい灯になっているかどうかというあたりをご紹介いただければと思います。もちろん、教育委員会からでも、こちらの皆さんの市民側から見てどういうふうに見ているかでも、ぜひご意見をお聞かせいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

さくら咲く学校には、私も何回か行ったことがあります、こんな活動や活用をしているのかと思ったことがございます。今、全国どこでも跡地活用は課題です、その跡地はどのように活用しているかというのを少し調べていただくと良いと思います。こういう活用で地域に貢献して、それが防災であったり、交流であったり、福祉であったりと様々な視点がありますので、全国に上手に活用している事例が見つかると思います。そういう事例を参考にしながら、掛川でも検討を進め考えていき、それを地域の皆さんに提供していくということが必要だと思います。

協働環境部長

協働環境部でございます。うちの部の方でこちらの施設を所管しております。さくら咲く学校につきましては、旧原泉小学校ということで委員の皆さんはご存じだと思いますが、もともと学校の校舎や体育館、グラウンド、それから校舎の裏側に地域学習センターがありまして、先ほどの表ではさくら咲く学校と原泉地域生涯学習センターが両方記載されております。さくら咲く学校自体は、現状、有志の皆さんが活動の拠点としていただいております、我が部では文化振興的な事業も実施しております、原泉の方にさくら咲く学校ではありませんが、住み着いて文化芸術活動をしていただいている若い方がいたり、さくら咲く学校内でも色々とアトリエ的な使い方をいただいたりトピック的に見ますと、ミニ文化芸術村のような感じで利用されております。

それから山歩きや山を愛する方のために、それを支援するような有償サポート事業で協力いただいている方もいると思います。また、地域的に台風災害などでご覧になっていただいたように陸の孤島化しそうな部分もありますので、グ

ラウンド自体はヘリポートとして多面的な利用をいただいております。

また、現地をご確認いただければと思います。よろしく願いいたします。

小松会長

ありがとうございます。鈴木副会長が全国にいろんな事例があるはずという話でしたが、実は私は研究室でここ数年、結構いろいろ学生と事例収集をしています。本当にいろんなタイプの活用方法がありまして、特徴的なものは学校の時は学校という一つの用途しかないですが、転用された時には複数の用途で活用され、学校というのは非常に面積的には大きく、それを丸々使える事業者はなかなかなくて複数の用途が入る場合が多くなります。例えば、野菜の販売場やレストランと宿泊施設にしたり、様々な活用事例が見つかります。それから場合によっては、一部だけを使って企業がある高精密機械の生産をするような工場にする場合もあります。

意外に大がかりな改修を施している事例は少なく、既存施設をできるだけ活かす、もしくは教室を二つに割るなどして既存の建物を比較的活かした使い方を行っています。逆に言うと活かせるものが入ってるいとも言えますし、そういう特徴があると私は考えています。

それから、先ほどご説明いただいたヘリポート、グラウンドというのはかなり重要で大都市部は別ですが、そのまま残している事例が結構多いと思います。地方都市へ行くと空地があるということは非常に重要なので、もちろん駐車場のな利用がされることもありますし、いろんな祭りや災害時のいろんな防災拠点として使われることもありますので、そういう使い方をするのでグラウンドは比較的残してあるところが多いと感じています。必要があれば、また私から資料提供させていただこうとも思いますので、全国的にはいろんな取り組みがなされています。

それからもう一つは、どうしても地域の外に向けた使い方をするケースも多くありますが、必ずその地域住民のためのスペースや技能が確保してあるという一つの共通点もあると思います。先ほどの防災拠点というのは、まさにそれでして、先ほどのまちづくり協議会もそうですし、地域の方がいろいろと集会をするようなスペースが多くの場合は確保されているということも特徴として挙げられると思います。

やはりそこが、先ほどからの地域のある種シンボルで、学校というものが学校機能として無くなっても、別の用途で継続していくということは、多くの廃校利用の共通していることだと思っています。

委員

一つ良い事例がありまして、昔からお住まいの方はご存知だと思いますが、大坂小学校の跡地には矢崎部品が入り、そのためにあの地域の周りは非常に活性化しています。非常に賑やかになって、町の一番のメイン商店街ができていているという状況です。やはり、皆がそこに通勤し若い人が周りのアパートにも居住しており、どんどん居住者も増加しているとも思います。会社の成績も影響しているとは思いますが、私はものすごく矢崎部品さんがそこに入ったことで、小学校の跡地活用が図られていると思います。地域としては小学校が無くなってしまった状況でしたが、非常に跡地が地域に貢献していると感じています。ここ数年そんな状況が続いています。矢崎部品さんは、第2工場があるかどうかわかりませんが、もし千浜小学校が無くなったら、キャタラーさんがあそこを買ってきて、そこに工場を建ててくれると素晴らしいと思っています。

委員

学校は地域の太陽で、学校が無くなると地域の太陽が消えてしまったということになりますが、考え方としてはちょっと総括っぽい話になりますけれども、跡地の活用をうまく考えていけば、また新たな太陽が創出でき、学校教育とはまた違う形で地域の賑わいを創出できて、安心や安全、福祉、その他産業も含めて何か違う形を提供できるそういう施設にしていきたいと思いますという発想に立てば、ただ太陽が無くなってもう終わりだということではなく、そういう考え方の基に発想の転換があるのかなと思います。そのためには、地域の皆さんにも様々な事例を紹介して、そういう活用方法を含めて皆さんに周知していくというのは、とても大事なことだと思いました。

小松会長

私は今日の議論をする時に、やはり複合化することだけではなく、どのように空いてしまったところを活用するのかということをお必ずセットで検討していくということをお願いさせていただきたいと思います。やはり、どうしてもこの議論はある意味、空いた土地を後回しにしがちな議論になるものですから、必ずセットで見るということは、ある意味では俯瞰的に見るということになりますし、都市計画などもすごく関わってきます。つまり、他の計画との整合性というものをよく考えなくてはならないと思いますので、ぜひそうしていただきたいと思います。おそらく、地元説明会などを行えば、必ずそういう話になっていきますので、今日は跡地活用について議論する時間ではないですが、是非セットで考えていただきたいと思います。

一応ですね、2時間ぐらいで閉会ということなので、そろそろ閉めていかなければならないですが、何か最後に言っておきたいことがあればお願いしたいと

思います。

委員

一番基本的なところで、学校などの経過年数が記載されていますが、耐用年数はどれくらいになるのか分からないので教えてください。

企画政策部長

前回の審議会の資料に掲載させていただきましたが、木造は耐用年数を30年としており、非木造よく言う鉄筋コンクリートなどは60年ということで耐用年数を設定させていただいております。よろしく申し上げます。

小松会長

これは造られた時代などから、もっと長く使える、物理的には耐用年数がある場合もあれば、逆にない場合もあります。例えば、私の経験で言うと1960年代後半あたりから、ちょうど建設ラッシュ時のコンクリートは実は質があまり良くないと言われていて、私に関わった三重県の学校でも鉄筋コンクリートなのに、30年ぐらいで建て替えたケースもございます。また、そういうのもあれば非常に良いコンクリートを打っているおかげで60年経っても非常にきちっとした物理的な性能の持っている場合もあります。

委員

学校の中で一番傷みやすい場所は、プールを管理するモーター室だと思います。そこは水を使ったり、カルキを使ったり、一方で使うのは非常に限定されていて、2ヶ月ほどだと思います。やっぱり建物は空気が通らないと傷みが激しいと皆さん言いますので、この学校再編を考える際には、跡地をどのように活用するかということまで考えて学校を新設していくということはとても大事だと思います。そして、学校に常に空気が流れていくようにすれば、結構、施設は長持ちするのではないかと思います。

小松会長

公共施設というのは基本的には、先ほどあったように60年ぐらいで建て替える前提で物事を考えているので、ある意味、例えばメンテナンスなども不十分の場合も多いと思います。これからは逆にメンテナンスのことをよく考えていかないとはいけません。例えば、よく言われるのは、庇をちゃんと出すことで雨がかかりにくい、窓周りに雨がかけられないようになるだけで物持ちが良くなります。

それから、学校の場合には屋根防水が切れるというのが、多分どこでも大きな

問題になるとは思いますが、かつ、それがなかなか対応できないでいるという自治体も多いと思います。やはり修繕計画を立ててやっているということが、これからは長寿命化も進めないといけないので、当然セットで考えていくべきだと思います。どうしても高度経済成長期には、そういう観点が少し忘れがちだったため、今並行して公共施設を早急に対処しなくてはならない理由でもあります。

小松会長

他にいかがでしょうか。よろしいですか。いろんなご意見いただきましたので、それを踏まえて地区説明会も行われますし、それから第4回の審議会に向けて事務局の方で整理をしていただきたいと思います。では、ここまでで協議事項は終了したいと思いますので、司会を事務局の方にお返しいたします。

松井市長

いろいろありがとうございました。公共施設の再配置などを考えた時の学校施設をどうするかということが最大の重要課題の一つだと思います。

教育長もいろいろ苦勞しておりますが、私自身はやっぱり再配置含めて、まず子ども達の教育にとって、あるいは子ども達の成長にとってどうすることが一番良いのか、ここを外すわけにはいかないと思っております。この観点から、再配置を進めていくべきであると思っておりますし、今日もそういうご意見をいただきました。

今日、この後、さくら咲く学校に行っていただけということではありますが、実は原泉小学校が無くなる時には、地域の人が「俺たちが出た小学校を無くしてしまうのか、残してくれ」こういう意見もありました。

従って、原泉小学校の跡地をどのように再活用するのかといった時に、先ほど協働環境部長の方からお話がありましたけれども、若い芸術家があそこを拠点として、育っていくような若手の芸術家村のような、そういう構想があり十分な形はありませんけれども、そこを利用していろんな方が入ってやってきていただくと説明しました。私自身、その後残った方がいいなと思ったのは、今日は桜が咲いていませんけれども、あそこの学校の周辺の桜が咲いている時に、あれを見て東の山の頂があって、ロケーション、景色はやっぱり将来残して、皆さんに見てもらいたいという意味もあって今に至っております。

そういう意味では、市街地の中というよりも沿岸部や山間部の施設については、そういう活用をしっかりと図っていかないと地域の方の理解を得にくいとは思いますが、中心市街地ではいろんな活用の仕方があるって、これもまたしっかり議論しなければならないと思います。沿岸部や山間部の施設については、やはり従来からのシンボルだったものをそう簡単に無くしてしまうというわけにはい

かないとも思っておりますので、学校施設ということを最大限考えて進めていきたいと思っております。今日もいろんなご意見をいただきましたので、地域に出るともっと痛烈なご意見が出ると思っておりますので、しっかりと学校施設をこうしていくというビジョンを持って理解を得なければ、他のものがついてこないと思っております。学校施設は教育の拠点でもありますけれども、ある意味では、地域の拠点としていろんなものがそこで利用でき、サービスの拠点でもあるというような形に再編統合の時には考えていく必要があります。

今の学校からすごく距離が遠くなってしまふ人達が心配だということもありましたので、これらについては先ほどから出ている移動手段をどう確保するかと同時に、これから通信網が昔と比べて利便性が高くなってきておりますので、そういうことも含めて、距離が離れてしまうことで子ども達が困ってしまうというようなことはないように対応していかなければいけないと思っております。今日いただいた色々な意見を改めてこちらで検証しながら、さらに原案をしっかりと作っていききたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。今日はどうもありがとうございました。

企画政策課長

それでは事務局より、その他といたしましてご報告をさせていただきます。

次回の審議会でございますが、令和2年1月31日（金）の午後3時開始を予定しております。場所は本日と同様、この全員協議会室になりますので、ご承知おきください。

また、今月25日を皮切りに中学校区単位9会場にて、公共施設再配置方針の地区説明会を実施いたします。地区説明会でのご意見などにつきましては、次回の審議会におきまして、ご報告をさせていただきますので併せてご承知おきください。それでは、以上をもちまして本日の審議会を閉会といたします。

本日は誠にありがとうございました。